

「人を思いやる心」

善光寺住職 黒田博志

新型コロナウイルス感染症の流行により、四月の初めに緊急事態宣言が出されました。不要不急の外出自粛要請により、多くの方が不安を抱え自宅にて過ごされたことと思います。その不安な気持ちからか、普段では考えられない行動を起こしてしまったという報道を耳にしました。

特に私に気になったのは、スーパーでの買い占めや家庭内暴力や子供への虐待、医療従事者の家族に対する差別などさまざまなものでした。「なんでこんなひどいことをするのだろう？」

と思いました。

ある日、マスクや消毒液を必死になって買い占めようと何軒もお店を探している自分がいました。なんとか手に入れることが出来、ひと安心。その時、私はハッとしました。今の自分の行いは、自分のことしか考えていなかったなと……。その自分を恥じながら、はたしてこの状況下で自分は自己中心的な振る舞いや差別の心を起こさずに行動することができるのだろうか。と改めて考えさせられました。多くの方が生活スタイルの変更を余儀なくされ、慣れない生活

のストレスと、今後どうなってしまうのかという不安が重なり、さまざまな問題が起こってしまいました。

新型コロナウイルス感染拡大の件で、曹洞宗務総長が「『自未得度先度他』の心に学び、『四摂法』に従って、冷静に行動しましょう」



住職と共にご挨拶に立つ熊谷筆頭総代

と談話を発表されました。

「自未得度先度他」の心とは、自分が仏果を得て救われる前に、まず他の人びとが救われるようにすることです。この状況の中、どのように実践すればよいのでしょうか。

「自未得度先度他」の心と聞くと、私はひとりの檀家さんを思い出します。お寺の筆頭総代の熊谷さんです。

総代とは檀家さんのまとめ役、その筆頭です。で更にまとめ役ということ。実は今年三月に百四歳でお亡くなりになりました。五十年間お寺に尽くして尽くして尽くしぬいてくださったお方です。

当寺は昭和四十四年開創、今年五十一年目となります。総代として昭和四十六年よりお勤めいただき、寺の草創期からお支えいただきました。百歳を超えた頃から「最近歳を感じるな。やつぱり歳かなあ」とか「最近身体が思うよう

に動かなくなってきたなあ」とか「そろそろ総代を引退してほかの方に譲らないとなあ」とにこやかにお話しされていたことを思い出します。

私や他の総代から「筆頭さんがいなくなつたらお寺はどうなるのですか?」とお願いをして最後まで現役を貫いていただきました。行事では必ずご挨拶していただきました。晩年は酸素吸入の器具を引きずりながらお寺にお越しいただいていました。しかし、行事の際は、その器具を控室に置かれ、本堂まで杖も使わずに一歩一歩確認するように進まれ、行事の最後のご挨拶では年齢を感じさせない張りのあるお声でお話ししてくださいました。

ご参詣の檀家さんは総代さまの壇上のお姿をただだけで拍手喝采でした。ものすごいパワーでした。その後は皆さんが総代さまの周りにあつまり、握手をしたり、身体中に触れたりとお様子はまるで「なでほとけ様」にご利益をい

ただこうとお参りしているようでした。

控室に戻ると呼吸を乱してソファーに座り込む総代さま。かなりご無理をなされていると感じました。お彼岸やお盆の法要は午前と午後二回行っています。両方の法要でご挨拶していただいているのですが、お辛そうなお姿を見た私は「お疲れのご様子ですので、午後の部はお休みください」と言いました。すると総代さまは「大丈夫、午後も出させてもらいます。それが私の務めだから」とおっしゃいました。明らかにご無理をなさっているのはご様子からわかりましたが、「承知いたしました。よろしくお願ひ致します。参詣の皆さまも総代さまのお姿を見れば喜ばれます。」「そうか。それはありがたいな。私も皆さんと同じだよ。皆さんにお会いするのが私の喜びなのだよ」と。その時のお姿お声は今でも鮮明に覚えております。

常にご自分のお身体のことよりもお寺のこと、

檀家さんのことを思い、出来ることをいつも精一杯尽くしてください。総代さま。まさしく「自未得度先度他」のお方でした。私はそんな総代さまの生きざまを私の中にすべて納めてこれから共に生きていきたいと思えます。

和尚である私も、今そのような生き方をしなければならぬと感じております。このような大変な状況下、総代さまだったらどうされるのか考えます。

このようなときだから？ 自分や家族のことだけしか考えられないということに陥ってしまいがちです。しかし、少し視野を広くして周りの人たちのことを気にかけるゆとりを持ちたいものです。外出自粛というのは私自身予想以上に辛いものでした。でも今、私に出来ることは風評被害や差別を起こすことのないように努め、すべてのものを平等に見る眼をしつかり持つことです。また、基本的な行動としては、新型コロナ

ロナウイルス感染症について正しく知り、知らず知らずのうちに罹患し、他の方に感染させてしまうことのないように行いを慎むこと。手洗いがいなど感染防止対策を徹底することにより、自分の感染を防ぎ、周りにいる方々の感染をも防ぐこととなります。

それでも、もし感染してしまったときには、その事実があるがまま受け入れて、医療従事者をはじめとする支えてくださる方々に対して、感謝の気持ちを忘れることなく治療に専念していきましょうと思えます。

疲弊しているこの世の中において、総代さまのように「自未得度先度他」の心をもって行動してくださることを切に願っております。

『生きる力』神奈川県第二宗務所第五教区
出版委員会発行